

G 1 平成 21 年度活動報告

金谷麻理子, 松田裕雄

【1】 研究目的 (課題)

本研究グループ (以下、G 1) は筑波大学体育センター (以下、体育センター) の教育活動を中心に、これまでの「大学体育」を総括するとともに現状を把握することを目的として、以下の3段階で研究活動を行う予定である (図1参照)。なお、今年度は1)、2)を中心に取り組んだ。

1) 基盤研究

「大学体育」を運営する組織の教育事業を可視化するための基本的枠組みを規

定する。

2) 評価・検証研究

体育センターが展開してきた教育事業をさまざまな観点から評価・検証していく。

3) 新規提案・挑戦研究

現代および今後の社会に貢献しうる人材育成のための「大学体育」について、および体育センターにおける教育活動のあり方について研究し、提案する。また、これからの体育・スポーツの本来的価値についての新たな知見を得る。

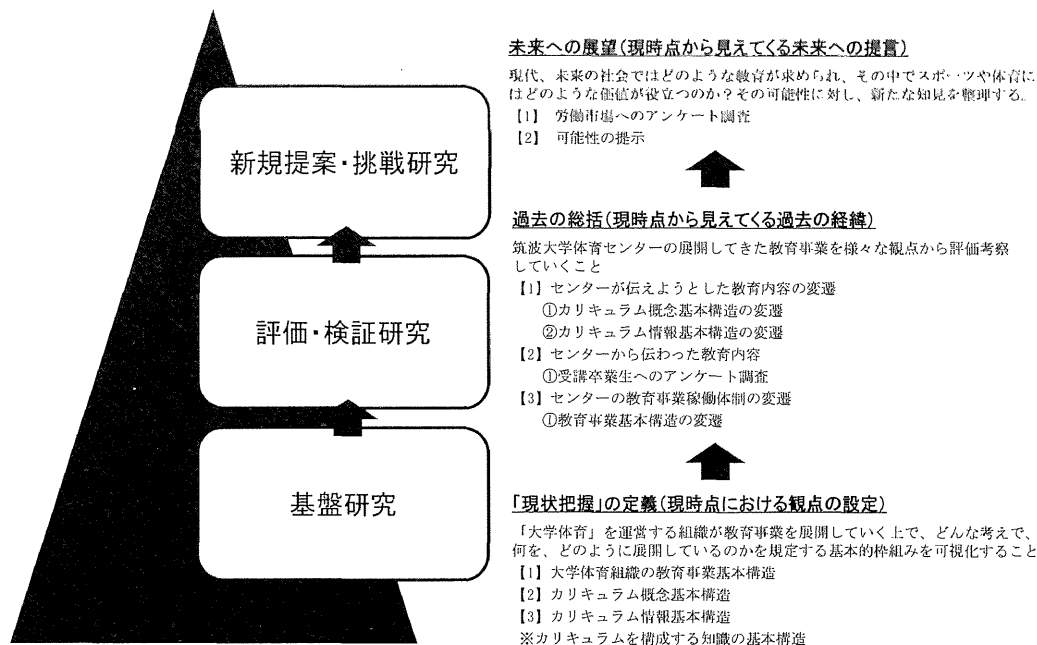


図1. 研究概要

表1 全体ミーティングと主なテーマ

第1回	6月29日	G1の研究プロジェクトにおける位置づけ(目的)の確認、研究方法の検討、グループ内の役割分担
第2回	9月29日	文献調査の中間報告
臨時①	10月20日	文献調査の報告、インタビュー調査の方法の提案・承認、作業スケジュールの承認
第3回	10月26日	インタビュー調査の中間報告、卒業生に対するアンケート調査の方針の提案・承認
第4回	11月30日	インタビュー調査の報告、卒業生に対するアンケート調査に向けての基礎調査の報告、投稿論文の概要の報告
第5回	12月25日	投稿論文の内容の検討、卒業生に対するアンケート調査の質問項目の検討①、研究発表会の開催の提案・承認
第6回	1月25日	卒業生に対するアンケート調査の質問項目の検討②、投稿論文の報告
臨時②	2月3日	卒業生に対するアンケート調査の方法の最終確認(提案・承認)
第7回	2月22日	卒業生に対するアンケート調査の中間報告、フォーラムにおける発表内容の検討

【2】 構成員

○金谷麻理子、○松田裕雄、河村レイ子、衣笠隆、橋直隆、白木仁、河合季信、川村卓、吹田真士、小田梓、津田龍佑、小山宏之、吉岡利貢、富川理充(非常勤研究員)

【3】 活動報告

(1) 会議

今年度、定例として7回、臨時として2回、計9回の会議を開催した。第1回ではSPERTプロジェクトの全体像とG1の位置づけについて確認し、活動方針を決定した。第2回以降は具体的な研究活動について、それぞれの調査等の進捗状況にあわせて審議した。また、すべての会議において、前回会議の議事要旨の確認およびコア会議の報告、予算の提案と執行状況の報告、スケジュール確認を行った。さらに、上記の他に、各調査の担当者が必要に応じて計20回以上の打ち合わせが行われた。

(2) これまでに実施した調査の概要

今年度は、研究段階2)に関連して、以下に示す3つの調査を実施した。

①文献調査

筑波大学および「大学体育」に関連する諸組織から発行された文献にもとづいて、体育センターにおける顕在化された教育活動の変遷を明らかにした。また、日本の大学教育における「体育」の発展に関与した

と考えられる歴史的事実も抽出した。

②インタビュー調査

これまでの体育センターの教育理念やカリキュラムの作成などの取り組みに深く関わってきたと考えられる体育センターOB教員ならびに現任教員に対してインタビュー調査を行い、文献調査の結果について確認するとともに、いくつかのターニングポイントに関するエピソードを収集した。

③アンケート調査

これまでの体育センターにおける教育活動の実態を明らかにするために、体育センターの「体育」の元受講生である筑波大学卒業生を対象にアンケート調査を実施した。この場合、これまでに実施した文献およびインタビュー調査で明らかになった内容に基づいて質問項目を設定した。

(3) 研究発表会

下記の概要で研究発表会を行った。

- ・日程：2010年1月27日(水)14:00~15:30
- ・場所：体育センター会議室
- ・目的：G1のこれまでの研究成果を体育センター教員全員に周知して、今後の研究プロジェクトの連携体制を強化すること。
- ・演者：松田裕雄
- ・参加者：筑波大学体育センター教員

(4) 投稿論文

現時点(2010年2月)で、研究段階1)

と2)の一部に基づいて以下の2本の論文を作成した。(いずれも投稿中)

- ①「大学体育」組織における教育事業基本構造の可視化－筑波大学体育センターを事例として－
- ②筑波大学体育センターの教育事業におけるカリキュラム概念基本構造の変遷

【4】 今後の展望

来年度は、日本の大学教育における「体

育」と体育センターにおける教育活動の発展の歴史的な関連性を明らかにするとともに、各種調査を引き続き実施して体育センターのこれまでの教育活動の実態をより詳細に明らかにしていく。また、G2への橋渡しとして、「過去の総括」と「現状把握」から読み取れる、これからの「大学体育」に求められる体育・スポーツの本来的価値についても考察をすすめていく。

以 上。